

大学博物館に関する研究

— CST MUSEUMの今後の展開へ向けて—

日本大学 学生会員 ○小野 耕二
日本大学 正会員 伊東 孝

1. はじめに

近年大学附属の博物館が相次いで新設、リニューアルされている。そこには通常の博物館がおこなう資料の収集、整理、保管及び展示等のほかに、一般市民に大学での研究内容、あるいは大学そのものをアピールしようというねらいが見える。日本大学理工学部にも駿河台キャンパスと船橋キャンパスにわたり、日本大学理工学部科学技術史料センター（CST MUSEUM）が平成16年4月に設立された。そこで、魅力的なMUSEUMづくりの知見を得るとともに、大学博物館の展示や運営に関する特徴を調査・分析した。

2. 博物館について

文部科学省の平成14年度社会教育調査によると、博物館数は1,117施設であり、11年度に比べ72施設増加、伸び率は6.9%、博物館類似施設数は4,243施設であり、11年度に比べ179施設増加、伸び率は4.4%となっている¹⁾。また博物館数、博物館類似施設数ともに年々増加している（図－1）。

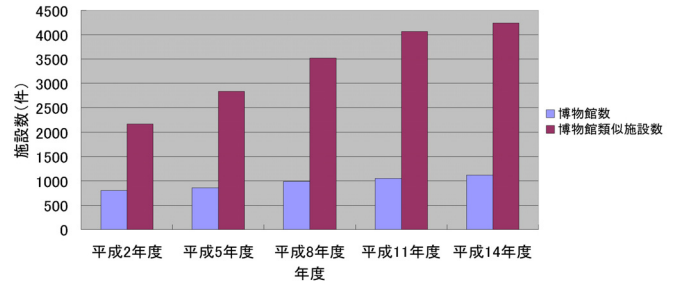
一方大学博物館に関しては、平成6年の138施設から10年後の16年には266施設に増えている。大学博物館の新設・リニューアルの動きは、1996年ころから国立大学でも始まっている。朝日新聞（2004年6月2日）によると、当時の学術審議会が高齢化社会など多様化する人々の学習ニーズにこたえるため、欧米の多くの大学にあるような博物館を、日本の大学も持つ必要がある、と報告書をまとめたからだといわれている。

3. 大学博物館の分析

今回60の大学博物館について博物館の種類、公開方法、展示方法、料金の4つについて分析をおこなった。この60施設は、全国各地の大学博物館をインターネット上から選択したものである。

（1）博物館の種類（図－2）

博物館は資料分野別によって総合博物館、人文系博物館、自然系博物館に分類される²⁾。さらに人文系は歴史系と美術系に、自然系は自然史系と理工系に分けられ、これらはさらに細分化することができる。今回は展示内



図－1 博物館数の増加傾向

容により総合、歴史系、美術系、自然史系、理工系の5つで分類した。

展示内容別に見ると歴史系が23施設で38%と最も多く、次いで自然史系が14施設で23%、同じく総合と美術系が10施設で17%となっている。最も少ないのが理工系の3施設（東京農工大学工学部附属繊維博物館、東京理科大学近代科学資料館、日本工業大学工業技術博物館）で全体の5%であった。

大学博物館は東京周辺に集中しており、この理工系博物館はいずれも首都圏に位置している。また国公立と私立別にみると、国公立は総合が10施設あるのに対して、私立は全くないという結果となった。

（2）公開方法（図－3）

公開方法は常設展示と特別展示を行っているところが38施設で64%を占めている。特別展示のみのところが女子美術大学美術資料館、昭和女子大学光葉博物館の2施設あり、割合は3%であり、いずれも私立である。その他は公開方法が不明で、20施設33%であった。

（3）展示方法（図－4）

展示方法については全体の91%にあたる55施設が、屋内で展示をおこなっている。屋外展示のみが1施設（東北薬科大学薬用植物園）で2%、屋内と屋外で展示を行っているのが4施設（岩手大学農学部付属植物園、東北大学大学院理学研究科付属植物園、共立薬科大学薬用植物園、北里大学薬学部附属薬用植物園）の7%であった。

（4）料金（図－5）

料金については37施設（61%）が無料、10施設（17

キーワード：大学博物館 科学技術資料 CST MUSEUM

連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1 電話047-469-5572 FAX047-469-2581

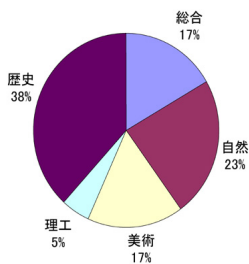


図-2 種類別大学博物館の割合

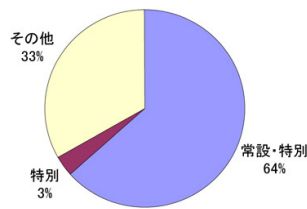


図-3 公開方法別の割合

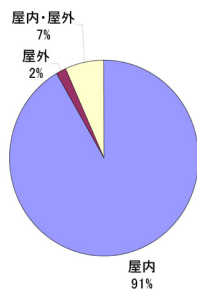


図-4 展示方法別の割合

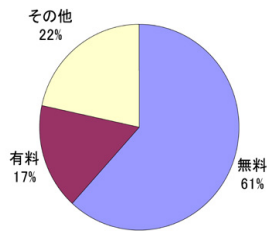


図-5 料金別の割合
大学博物館は60施設

%)が有料、その他13施設(22%)は不明である。有料の平均は436円であり、一番高い東海大学海洋博物館の1,800円を除くと284円になる。

4. 首都圏における理工系博物館の調査

CST MUSEUMでは屋内展示と屋外展示をおこなっている。しかし今回の分析では理工系の大学博物館で屋外展示をおこなっているところがあった。そこで現地調査をおこなうために、首都圏における理工系の博物館で、屋外展示をおこなっている航空科学博物館、国立科学博物館、東武博物館、青梅鉄道公園の4つの博物館について調査をおこなった。

(1) 理工系博物館の特徴

すべての博物館で実験や体験ができ、職員の説明などもあった。案内や職員の説明などは、今回の4つの博物館以外の博物館でも当てはまりそうだが、実験や体験ができるというのはこの結果だけで断定することはできないが、おそらく理工系博物館の大きな特徴となるのではないかと考えられる。また、青梅鉄道公園は分からないが、3施設でイベントをおこなっている。マイナスの面としてはバリアフリーに対応していない博物館が多く、また野外展示物なのに展示場所が悪かったり、スペースがないため観覧しづらいところもあった。

(2) ヒアリング調査

理工系の博物館について現地調査を実施したが、実際にどの様に展示や運営をしているのか明らかにし、さら

にどの様な問題点があるのかを見出すために、航空科学博物館へヒアリング調査をおこなった。

常設展示の展示物は通常では10～15年で入れ替えをおこない、展示は展示業者に依頼するのが普通だが、業者に依頼すると同じような博物館になりやすく目新しさが出てこないという問題点が発生する。また屋外展示は写真が撮りやすかったり、イベントや講習会などで実験や体験できるという利点がある。しかし一方では、湿気やほこり、日光、お客の扱い方などによって資料が傷みやすいという問題もある。

企画展示は常設展示の補完的な役割を果たしており、テーマも常設展示にちなんだテーマや普段扱っていないテーマ、あるいは何らかの記念の年にはそのテーマを選ぶ。学芸員はいくつかの案を出し、それについて管理職や全体を交えて話し合っていて決めていくが、学芸員だけの案だと専門的になって分かりづらくなってしまったり、おもしろいアイデアが出てこないという問題がある。そこでなるべくなら一般の人の意見を聞きたいということである。

5. おわりに

理工系の大学博物館は全国的に見ても非常に少なく、また屋外展示をおこなっているところもほとんどない。このことから理工学部が設立、屋外展示をおこなっているCST MUSEUMは非常に特徴的な博物館であるといえる。

一般の理工系博物館は実験や体験できることが大きな特徴であった。これらはただ展示するだけでなく、体験型として話題性があり、利用者にとっても楽しみながら、より分かりやすく学ぶことが出来るという利点があり、面白みがある展示方法である。

大学博物館は今後増加するものと考えられ、学内での学術研究や教育への活用、一般への公開を通した大学の広報機関としての役割、大学の歴史継承などその意義は強く、大学だけでなく社会において重要な位置を占めるものと思われる。

なお本研究は、平成16年度の「日本大学理工学部情報教育センター・指定研究」の助成を受けたものである。

6. 参考文献

- 1) 文部科学省社会教育調査
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/index04.htm
- 2) 「公立博物館の設置及び運営に関する基準」、1973年